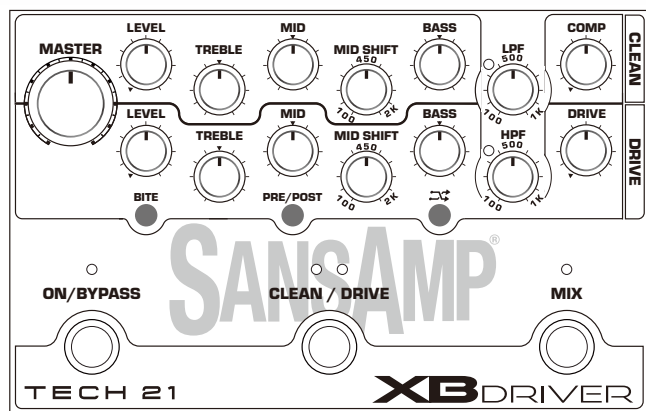




SansAmp XB Driver USER GUIDE

1 はじめに

SansAmp XB Driver は、Tech 21 の人気機種 SansAmp Bass Driver DI/SansAmp Para Driver DI/QStrip/dUg Pinnick Ultra Bass 1000 の主要な要素を、1 つ筐体に統合した伝統的なものから極悪非道なものまで幅広く対応できるベース用ペダルです。100%アナログのデュアル・チャンネル、15 個のノブと 3 個のスイッチを備えた、洗練されたデュアル・アンプ、バイアンプ、DI ツールボックスです。使い慣れたアンプのように直感的にコントロール可能で、幅広いベース・トーンを簡単に作ることができます。Clean チャンネルと Drive チャンネルはフルレンジで完全に独立しており、個別に使用することも、Mix フットスイッチでブレンドして使用することも可能。Mix モードでは、Crossover スイッチをオンにすることで、LPF と HPF の二つのフィルターを使用でき、さらに独自性溢れるトーンを作り出すことができます。Clean と Drive のデュアル・チャンネルには、中心周波数を調節可能なセミ・パラメトリック・ミッドコントロールと Level コントロールを備えた 3 バンド・アクティブ EQ を搭載。Clean チャンネルにはコンプレッサーが搭載され、Drive チャンネルにはハードに歪んだアンプをエミュレートする独自のオーバードライブ・コントロール、ハーモニクスを強調する Bite スイッチ、Pre/Post SansAmp セミ・パラメトリック・ミッドレンジ・スイッチ、高音域の歪みとクリーンなローエンドの低音を融合させる Crossover スイッチが搭載されています。SansAmp XB Driver は、主に dUg Pinnick にインスパイアされていますが、Geddy Lee、John Entwistle、Tom Petersson、Jeff Ament、Chris Squire などのベース・トーンの革新者にも敬意を表しています。SansAmp XB Driver は様々なスタイルに対応する柔軟性と汎用性を備えており、あなただけの魔法を生み出すことができます。

2 接続

ベースアンプとの接続：

プリアンプとして接続：

本製品の出力を直接パワーアンプの INPUT (またはベースアンプの「エフェクトリターン」) に接続します。これによりアンプのプリアンプ部をスルーして本機でコントロール可能です。

外部エフェクトとして接続：

1/4 インチ出力をベースアンプのフロント入力 (メインの入力端子) に接続します。最良の結果を得るには、アンプへの入力が増幅にならないように、SansAmp のレベルを必ずユニティゲイン (出力レベルが本機の ON/OFF 時でほぼ同じ状態) に近づけてください。

フロント入力を使用するときのアンプを設定するためのヒント：

- 1.LOW ゲインチャンネル入力に接続します
2. プレゼンスコントロール (該当する場合) を 12 時以下に設定します。
3. アンプ側のトーンコントロールをできるだけフラットに設定します。

PA パワーアンプへ接続：

1/4" 出力もしくは XLR OUT を PA ミキサー、もしくは、PA パワーアンプの入力に接続します。本製品の Level コントロールで音量を調節します。

注：アンプのパワーアンプ入力またはパワーアンプを単独で使用する場合は、必ず出力レベルスイッチを次のように設定してください。

1/4" を使用している場合：+10dB オン (■)

XLR を使用している場合：Line Level オン (■)

その後、必要に応じてレベルを調節します。

ダイレクトにレコーディングする：

XLR または 1/4" フォン出力をミキサー/レコーダーの入力に直接接続します。ミキサー/レコーダーのインプットゲインコントロールを操作して入力が増幅にならないように調節してください。本機のレベルが 12 時を下回っていても過負荷になっている場合は、それぞれの出力レベルスイッチを使って出力を下げます。

1/4" フォンを使用している場合：+10dB オフ (■)

XLR を使用している場合：LineLevel オフ (■)

これらのフルレンジシステムは幅広い周波数に対応しています。まずは 12 時の EQ レベルから始めてください。

4 コントロール

CLEAN CHANNEL :

COMP

他のコンプレッション方式よりも本質的に温かくクリアで、音楽的な 50 年代から 60 年代にかけて開発された FET ベースのオールスクールなオールアナログ・テクノロジーを採用。

BASS & TREBLE

12 時の位置から $\pm 12\text{dB}$ カットまたはブースト可能なアクティブトーンコントロールです。トレブルの中心周波数は 3.2kHz です。

MID SHIFT & MID

中心周波数を選択可能で 12 時の位置から $\pm 16\text{dB}$ カットまたはブースト可能なアクティブトーンコントロールです。Mid Shift で、中心周波数を選択することができ、シンバルやギター等と周波数を変えることで音抜けを改善することが可能です。また、様々なユニークなサウンドを作ることも可能です。MID シフトを 1kHz に設定した場合、MID は従来製品と同様のミッドレンジ・コントロールとして動作します。

LEVEL

Clean チャンネルの出力レベルを調節します。1/4 インチ出力と XLR 出力の両方に作用します。

DRIVE CHANNEL :

DRIVE

入力感度を調節し、全体的なゲインやオーバードライブの量を調節します。

BASS & TREBLE

12 時の位置から $\pm 12\text{dB}$ カットまたはブースト可能なアクティブトーンコントロールです。トレブルの中心周波数は 3.2kHz です。

MID SHIFT & MID

中心周波数を選択可能で 12 時の位置から $\pm 16\text{dB}$ カットまたはブースト可能なアクティブトーンコントロールです。Mid Shift で、中心周波数を選択することができ、シンバルやギター等と周波数を変えることで音抜けを改善することが可能です。また、様々なユニークなサウンドを作ることも可能です。MID シフトを 1kHz に設定した場合、MID は従来製品と同様のミッドレンジ・コントロールとして動作します。

LEVEL

Drive チャンネルの出力レベルを調節します。1/4 インチ出力と XLR 出力の両方に作用します。

BITE

Drive チャンネルのプレゼンスブーストを有効にし、歪ませたセッティングではサウンドをタイトに、クリーンセッティングでは音の輪郭をより強調します。

PRE/POST

Drive チャンネルの EQ 配置を、アンプ・エミュレーションの前または後に変更します。

スイッチおよびその他の機能 :

MIX MODE

Mix フットスイッチで 2 チャンネルをミックスします。各 Level コントロールでミックスの比率を調節し、お好みのバランスで Drive と Clean をブレンドすることができます。

CROSSOVER

ミックス・モードでは、クロスオーバー・スイッチで LPF と HPF の二つのフィルターを作動させ、さらに独自のトーンを作り出すことができます。低域と高域を 2 つの別々の信号経路に分割し、LPF と HPF のダイヤル設定に従って「再構築」します。これにより、Chris Squire, dUg Pinnick, Geddy Lee, John Entwistle のようなアーティストが、かつて山のようなラックやアンプを使用して行っていた作業をよりシンプルな方法で実現することができます。

LPF / HPF

MIX モード時に Crossover スイッチを ON にすると起動するフィルターです。100-1K の範囲で調節可能で高音低音を同時にフィルタする PA のフィルターとは異なり、各周波数を個別に調節可能なのでまったく新しいサウンドを作ることができます。

MASTER

両チャンネルの全体的な音量を調節します。

5 入力

電源を入れる順番について：

本機の電源を最初にオンにし、最後にオフにします。機器を接続または切断するときは、スピーカーを損傷する可能性のある「ポップノイズ」を防ぐために、プラグの抜き差しを行う前に、必ずミキシングボードをミュートにするかアンプの音量を完全に下げてください。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

1/4” INPUT

1/4” フォン 1MΩ、インストゥルメントレベル。

1/4” Input Level Padスイッチ

アクティブベース用に、入力を-10dBします。（)

※1/4" チューナーアウトにも影響します。

6 出力

本機の出力部は、あらゆるアプリケーションに対応できるように設計されています。出力は、フルレンジ（マルチトラックレコーダー、スタジオモニター、P.A.システム）またはリミテッドレンジシステムに同時に使用できます。

※トレブルコントロールを使用することで、スピーカーエンクロージャーの周波数特性の違いを補正することができます。

XLR 出力

バランスド 600Ω出力。EQ やエフェクトのかかった、またはバイパスされた信号をミキサーやレコーダーに出力します。

GROUND CONNECT スイッチ

オンにするとグラウンドが接続されます。スイッチがオフの場合、ステージシステムや他の相互接続機器のグラウンドは、ミキシングコンソールのグラウンドから切り離されます。

ミキサーのみとだけ接続する場合

ベースを XB ドライバーに接続し、XLR 出力をミキサーに接続する場合、他のアースされた機器が接続されていない場合は、スイッチを押してアースを接続する必要があります。

ミキサーとベースアンプに接続する場合

XLR 経由でミキサーに接続し、1/4 " 出力をベースアンプ（独自の AC グラウンドを持つ）に供給する場合は、スイッチをオフ（) にして「グラウンド・リフト」モードにしてください。スイッチをどちらの位置にしてもハムやバズが発生する場合は、使用している AC コンセントに問題がある可能性があります。

XLR Output Line Level スイッチ

マイクレベル (-20dB) とラインレベル (0dB) を切り替えます。

1/4”出力

アンバランスローインピーダンス出力。

1/4” Output Level Boostスイッチ

異なる入力レベルを必要とする機器に出力を合わせるために +10dB ブーストします。オフ（) にすると、出力は -10dB になります。オン（) にすると、出力は 0dB になります。1/4" チューナー出力にも影響します。

1/4" OUT と XLROut の両方の出力を同時に使用することができますが、1/4" OUT をアンプに、XLROut を PA ミキサーに接続する場合、Ground を解除する必要がある場合があります。（**GROUND CONNECT スイッチ参照**）

1/4” TUNER出力

Level コントロールの影響を受けない信号を出力します。この出力は、他の機器にトランスペアレントな信号を送るためのバッファード・アウトとしても使用できます。

※1/4” Input Level Pad スイッチは 1/4 "TUNER 出力にも影響します。

SEND/RETURN Effects Loop

外部エフェクトを使用する場合は、プロセッサの入力を Send に、出力を Return に接続します。

※**エフェクト・ループ**に何も接続されていない場合、信号は XB ドライバーから出力端子に送られ、1/4 " と XLR 出力の両方に同じ信号が送られます。

7 使用上のヒント

- ◆ ペダルがアクティブでもバイパス状態でも、スピーカーやモニターからの音量が同じになるように Level コントロールを設定することで、次の接続機器へ通常楽器から出力されるよりも高いレベルの信号を受け取ることを防ぎます。同様に低すぎるレベルの信号を受け取るのも避けることができます。
- ◆ 本機のコントロールは緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の結果を得るためには、すべてを最大に設定する必要はありません。
最適な設定を見つけるには、12 時のトーンコントロールから始めて、必要に応じてカットまたはブーストします。設定はアンプや環境によって大きく異なるため、その都度ベストなサウンドを探してください。
- ◆ 本機はベース本体やピッキングによって様々な信号レベルを出力します。例えば、高出力信号と強めのピッキングはゲインを増加させ、歪みを生みます。低出力信号と軽いタッチは、ゲインを減少させ、歪みにくなります。プレゼンス(BITE)、DRIVE、EQ コントロールを使用して、あなたのスタイルに最も適したサウンドとゲインの適切なミックスを探してください。例えば、ハイエンドをよりクリーンでスムーズにしたい場合は、TREBLE を上げてプレゼンス(BITE)をオフにします。より多くのオーバードライブを望むならば、プレゼンス(BITE)をオンにしてTREBLEを下げる事により高次倍音とアタックを引き出します。TREBLE を上げると、超高音域の成分を変えずに高音域の成分を増やす事ができます
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールはとても敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆ 本機を飽和状態（強く歪んだ状態 / サチュレーション）にすると、オーバードライブチューブアンプのように倍音が強調されます。設定によっては独自の回路が過度な入力を制限するため、外部コンプレッサーやリミッターは必ずしも必要ではありません。
- ◆ 他の機材との最適なセッティングを見つけるためには、個別の根本的に異なるセッティングの必要がある場合があります。それぞれの機材を引き立てる適切なバランスを見つけてください。まずは、トーン・コントロールを 12 時の位置から始め、必要に応じてカットまたはブーストすることをお勧めします。
- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。特に時間を変更するエフェクト（コーラス、ディレイ、リバーブなど）は、エフェクト・ループに入れるか、SansAmp XB Driver の後に接続してください。XB ドライバーの前に音色を変更する歪みエフェクトなどを接続する場合は、必ずエフェクトの出力レベルを楽器の出力レベルと同じレベルに設定してください。

